

## 国立市の火災で防災カーテンが類焼を防いだ事例

平成20年11月、国立市で火災がありました。15時前後の出火で昼間の火災です。出火元は、木造住宅の民家で、雨戸は閉切った状態でした。出火後、炎は民家の天井裏から軒下を伝わり、隣家に迫りました。隣家の外壁は炎にあおられ一部延焼しています。外壁の開口部の窓にも炎は容赦なく延びてきて、隣家は延焼の危険に曝されたそうです。

外壁の一部は延焼しています。窓枠をなめた炎はガラス越しに室内に向かってきます。

間もなく消防活動も開始され消火作業が進められますが、延焼防止までには少し時間を要したようです。

隣家の窓には防災品のカーテンが使用されていました。また、窓ガラスを破損して炎は室内に侵入していました。迅速な消防活動と、防災カーテンの延焼防止の効果（カーテンは一部損傷しましたが）により、隣家は延焼を免れました。

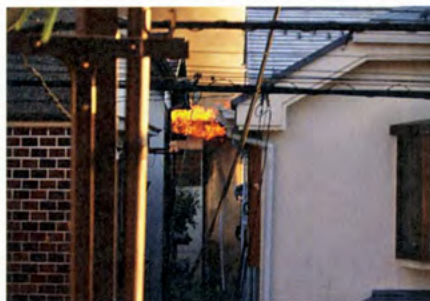
今回の奏功事例は近所の火災で間近に見ることができ、写真の撮影も可能であったこと、防災カーテンの更新の際に隣家の住民から直接話をお聞きできたことで、明らかになりました。火災の状況、炎にあおられた防災カーテン等の写真は掲載のとおりです。鎮火は午後18時半頃でした。

備えあれば憂いなしとの諺どおり、防災性能への信頼性が確認された出来事でした。また、日頃から災害への備えがどれだけ重要かを思い知らされた火災でもありました。

① 出火2階の窓から炎が吹き出す。



② 軒下からも炎が吹き上げる。



- ③ もうもうと煙を上げ燃え上がる。



- ④ 右側の屋根の家が類焼を免れたTさん宅、隣棟間距離約90cm、炎が隣家Tさん宅の壁をなめて燃え上がる。



- ⑤ ④の写真は隣家Tさん宅の窓でもう修復されていますが、この窓のガラスが割れ落ちて網戸はすっかり燃えてしまい炎が室内に入りました。

下記の防災暗幕で炎を食い止め室内に類焼するのを防ぎました。

もし掛かっていたのが普通のカーテンで燃え広がったら、室内に燃え移ってしまうところでした。下の写真はそのときのカーテンで、裏側が焦げているのがわかります。



焦げただけの防災カーテン  
(④に設置されていたもの)